第３学年　音楽科学習指導案（令和２年９月１０日：名寄市立風連中央小学校）

授業プラン：芳賀均・大野紗依・藤井真衣

授業者　　　　　　　：大野紗依・芳賀均

研究の意図・目的　　楽器のよりよい奏法を子どもが自ら発見する活動を模索する

１　題材名

打楽器で思い通りに音を出そう

２　本時の活動

○試行錯誤しながら楽器のよりよい奏法を追究することができる

・打楽器の音色の違いを聴き分けることができる（技）

・思い通りの音色を再現することができる（技）

・打楽器のよりよい音の出し方を理解する（知）

・演奏に合った音色を理解する（知）

・思い通りに音を出すために試行錯誤しながら奏法を工夫することができる（思）

・楽器のよりよい奏法を発見する活動に意欲的に取り組むことができる（態）

|  |  |
| --- | --- |
| ○教師がシンバルで発した数種類の音色を聴き、代表の児童が教師の音色を模倣しながら、奏法を獲得していく  ○楽曲に合ったシンバルの音色を検討する  ○手作り太鼓を使い、児童どうしで模倣と言語化を行い、様々な奏法を獲得していく  ○獲得した奏法を活用してリズム創作をする | ・人や目的によって音の感じ方は異なると考えられるため、違いや特徴を言語化して価値づけを行う  ・意見が分かれた際、どの部分から感じ取ったのか、それぞれ言語化させる  ・代表の子どもは自分の発している音色との差異を認識し、代表以外の子どもは知覚した音の言語化をしていく  ※手を挙げて発言する場面と自由に発言する場面のどちらであるかわかるよう、黒板に表示する  ・楽曲は「新世界」「エーデルワイス」「笑点」を使用する  ・教師は合わない奏法や過剰な奏法も取り入れていく  ・教師が発したシンバルの音色が演奏に合わない場合、どのよう演奏したらよいのか、言語化しながら変化させていく  ・どのような音が演奏によって使い分けられるのか、傾向を整理していく  ・全員に手作り太鼓を配布する  ※破れている太鼓を提示し、楽器が壊れるような叩き方への注意を促す  ・児童が発した音色を、教師と児童との問答によって特徴を言語化し、価値づけを行う  ※ペアをつくる  ・実際に模倣できるか、ペアで確認する  ・3種類程度の違う奏法の音色の発見を目指す  ※話を聞く場面と、考えて音を出す場面のけじめが分かるように、黒板に表示する  ※ペアをそのまま保っておく  ・発見した3種類の音色を活用し、リズム創作をする  ・班ごとに音とリズムを組み合わせて一つの作品にする  ※最後に発表会ができたら行う |